

## 故竹林代嘉教授のご逝去を悼む

### —追悼号の刊行に寄せて—

専修大学 経営学部 教授 竹林代嘉先生は、2005年（平成17年）7月23日に急逝されました。享年63歳でした。

23日、奥様と愛犬のお墓参りにお出かけになるために車を車庫から道路に出された直後に、「気分が悪い」と訴えられてお部屋で横になられ、奥様から救命措置を施されたのち、救急車で病院に運ばれて、そのまま他界されたと伺っております。まことにあっけない最期でありました。

先生は心臓に持病があり常にご注意ご養生されていたそうですが、そのことを誰にもお話しになりませんでした。そのためわれわれは「元氣印の竹林先生」しか存じ上げませんでした。亡くなる前日の夕方も、教員室で多くの先生とお話しになって、ゼミ生の講義にお出かけになりました。そのようなことで、先生の訃報に接した教職員や学生は、ご逝去を全く信じることができませんでした。文字通り突然の出来事で、一周忌を過ぎました今も先生のお姿が鮮明に脳裏にあり、教授会のいつもの席に先生がにこやかにお座りになっておられるような錯覚を覚えます。

竹林代嘉先生は、昭和17（1942）年のお正月2日にお生まれになりました。東京都立立川高等学校を経て、昭和39年に早稲田大学第一商学部をご卒業になり、同大学大学院商学研究科修士課程を昭和41年に修了され、直ちに同大学院商学研究科博士課程に進学されました。俊英の誉れ高かった先生は、翌昭和42年4月に専修大学経営学部助手と

して採用されました。その後、昭和年45年に専任講師、48年に助教授、56年に教授と、それぞれ昇進され、平成17年に至る39年の永きに亘り、教育研究に貢献されました。文字通り専修大学一筋に学部学生、大学院学生をご指導になり、優秀な社会人として輩出されました。先生のご薫陶をうけた卒業生達は、一流企業はじめ会計事務所など公共の組織で活躍しておられます。

先生のご履歴を拝見しますと、教育、研究および学内運営の諸活動を幅広くご担当になり大学の内外に輝かしい足跡を残されたことが分かります。

学部では、「財務諸表論」、「会計学総論」、「外国書講読」、「ゼミナール」など、大学院では修士および博士課程をご担当になりました。その傍ら図書館委員、体育部委員など入学から就職卒業に至るあらゆる面で学生向けに多大な貢献をなされました。

穏やかなお人柄で人情味厚く、誰に対しても誠心誠意、公正無私の方でありました。学生達には学問だけではなく、国際性と倫理観そして深い人間愛を身をもってお教えになりました。先生は、真摯でユーモアあふれる語り口で、学生やわれわれにいつも深い感銘を与えて下さいました。先生のご講義を受けた学生は万を超え、直接ご薫陶を受けたゼミ生は39年間に400人に達しております。

研究活動においては、日本会計研究学会、日本会計史学会、国際会計研究学会、日本経営学会などに所属され、それぞれの学会において指導的なお立場で活動してこられました。昭和54年度には長期在外研究員として専修大学からアメリカへ派遣され、平成7年度には国内研究員として母校早稲田大学商学研究所において研究活動に従事されま

した。

平成9, 10年度には、経営研究所所長として、後進の指導と経営学研究を推進、専修大学の声価の高揚に多大な貢献をなされました。

一方、学内運営活動においては、入学試験委員、教員資格審査委員、全学FD委員会委員、自己点検・評価委員等として足跡をお残しです。

会計の系列会や教授会その他の委員会などにおいて、意見の対立があるときには、先生独特の論理、語り口、お人柄によって調整され、意思の統一を図られました。言葉は不適切かも知れませんが、「もめ事の解決」に貴重な存在であり、みんながどれほど助けられたか計り知れません。

専修大学は今21世紀ビジョンとして「社会知性の開発」を掲げ、「学生を中心に据えた」諸施策を鋭意推進しているところであります。また、2010年には創立130周年を迎え、関連する事業が展開されております。その一環として生田校舎に5,400人の学生を収容できる10号館（仮称）の建設が進んでおり、来年3月に竣工いたします。その威容をご覧になることなくこの世を去られたことは、先生にとっても残念であったと拝察いたします。

少子高齢化に代表される厳しい環境にあって、これからの専修大学は他の大学と同様に乗り越えないといけない数多の困難に直面することが予想され、竹林先生のアイデアや調整力を必要としていました。いずれも叶わぬこととなってしまいましたが、先生の専修大学に対する情熱とご遺志を忘れることなく、教職員が心を一つにして、21世紀ビジョン「社会知性の開発」を実現して参りたいと思っております。

ここに先生とともに活動し、またご指導を賜った教員が最近の研究  
成果を募り、「専修経営学論集第83号」を「竹林代嘉教授追悼号」と  
して編纂して先生の墓前に捧げ、ご遺徳を偲び、そのご恩に感謝申し  
上げますとともに、改めてご冥福をお祈り申し上げます。

合 掌

2006年10月

専修大学前経営学部長 魚 田 勝 臣